

令和 6 年度事業報告

概要

令和 6 年度における我が国経済は、雇用・所得環境の改善の下、円安による輸出の増加やインバウンド需要の伸びにより総じて穏やかな回復基調となり、設備投資も進むなど企業部門は好調さを維持しました。その一方で、ウクライナ危機の長期化や中東情勢の悪化、中国経済の停滞、強圧的なトランプ外交など予測困難な国際情勢に加え、断続的な円安が進む中、名目賃金・所得の伸びが輸入コストプッシュ型の物価上昇に追いついていないことによる消費マインドの委縮などが、経済成長率を下押しする要因となりました。

一方畜産を含む食品関連業界では、コスト高に対する価格改定は一定進んだものの、全般的な物価高に伴う節約志向の動きに押されコスト転嫁はまだ充分とは言えません。経営コストの主要部分を占める飼料価格は依然として高止まり、電気・燃料費や生産資材価格、2024年問題となった物流費も高騰しており、我が業界を取り巻く環境は厳しい状況が続きました。

昨年末から年明け2月まで高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が一昨年並みに大発生しましたが、3月に入り発生もなく最悪の事態は避けられそうな状況になっています。鶏卵については局所的に出荷量不足となり、それに応じて鶏卵価格も年初の安値から脱却し、一昨年の高値を追いかける展開となりました。また、輸入牛肉や豚肉全般の高騰に加え消費者の低価格志向から鶏肉に需要が集中し、鶏肉価格も秋口より高値で推移しました。

しかし、ひな価格は依然低位であり、原材料価格の高騰や人手不足に対応した賃金アップ分を反映した適正で再生産可能なひな価格を実現することが喫緊の課題となっています。

このようななか、当協会では引続き良質ひなの安定供給を図るための協会独自事業（レイヤー・ブロイラー計画生産検討会の開催や情報発信等）に加え、鶏ひなふ化羽数・え付けデータの収集・公表や、従業員等を対象とした種鶏管理・孵卵技術の研修を行う孵化場体質強化推進事業（JRA助成事業）、農研機構の協力の下、ニワトリの始原生殖細胞（PGCs）の凍結保存等技術の普及事業を実施しました。

また、アニマルウェルフェア（AW）に配慮した飼養管理（特に鶏ひなのふ化場における安楽死手法）の普及のため、昨年度作成した「ふ化場におけるAW推進ガイドラン」を使用した勉強会の実施、AWに配慮した飼養管理実施率向上のための検討会等を実施しました（農林水産省助成事業）。これに加え、公益社団法人畜産技術協会との共同実施であるAW認証制度検討事業（JRA助成事業）の一環で卵内雌雄鑑別の先進地であるオランダ・ドイツへ調査活動を実施し、報

告書も作成しました。

さらに、一般社団法人日本養鶏協会より受託した「精度向上に配慮した鶏ひなふ化羽数調査業務」において、各ふ化場さまから標準化したマニュアルに基づく調査票によりデータを収集し、先半年の卵殻色別出荷羽数の見通し等を調査検討委員会を経て報告し、精度の高い鶏卵の需給見通しに寄与しました。

これらの事業にご協力を頂いた会員の皆さまにお礼申し上げます。
令和6年度に実施した各事業は次のとおりです。

I. 受託事業

1. 孵化場体質強化推進事業（素ひな供給安定推進事業）（JRA助成事業、一部独自予算）

（1）事業の概要：

良質ひなの安定供給を図るため、鶏ひなふ化羽数・え付け羽数データの収集・公表及び種鶏管理や孵卵技術の技術研修を行い、種鶏孵卵場の経営安定化を図ることを目的とした事業。

（2）素ひな供給安定推進事業：

ひなの需給予測の精度を向上させるため、鶏ひなふ化・え付け羽数データの収集・調査を実施し、調査結果について月報及び年報を作成し公表する事業。毎月ホームページ等で公表するとともに、令和7年3月には年報を作成し公表した。

（3）種鶏孵卵技術研修事業：

ア. 第1回推進委員会を6月18日に開催し、学識経験者（畜産技術協会 竹原参与、家畜改良センター岡崎牧場 丹菊場長）による事業内容等について協議。

イ. 孵化場の職員等を対象として、種鶏やひなの管理、孵化技術のほか、衛生問題、アニマルウェルフェアに関する動向等種鶏場運営に係る知識等の習得を目的に令和6年9月24日～27日に仙台会場で「種鶏孵卵衛生管理士研修会」を開催した。参加者は46名で、直接指標として60名参加としているため達成率は76.6%となった。研修者からアンケートを取ったところ、研修に対する評価は9割以上が満足の回答であり、効果も9割が能力の向上に繋がると回答。

次年度（令和7年度）は福岡会場（福岡県中小企業振興センター）で、令和7年9月9日（火）～12日（金）を予定。

ウ. 第2回推進委員会を令和7年3月6日（木）に開催し、令和6年度事業の総括や次年度以降の進め方等の協議を行った。

2. 畜産生産力・生産体制強化対策事業「鶏始原生殖細胞（PGCs）凍結保存等技術の習得及び普及」（農林水産省助成事業）

（1）事業の概要：

地鶏等の生産振興を維持・継続するため、貴重な遺伝資源である種鶏の半永久的保存を行う上で有効と考えられている精子や卵子の元になる始原生殖細胞（PGCs）の凍結保存法と始原生殖細胞からの個体再生法の技術者養成のために研修会やセミナー開催する。また、技術習得に必要な機器の購入を補助することを目的とした事業。

（2）技術者養成に係る研究の委託：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下「農研機構」という）に「ニワトリ始原生殖細胞による遺伝資源保存技術者養成」という研究課題で委託し、技術導入を希望する自治体等に対して研修会やセミナーを実施してもらうと同時に、必要な機器（顕微鏡デジタルカメラ、倒立型リサーチ顕微鏡等）の取得を支援。

（3）技術習得研修会の開催：

ア．開催時期：令和6年11月5日（火）～11月22日（金）

イ．場 所：農研機構 畜産研究部門施設

ウ．参加者：長崎県、秋田県、三重県の各畜産研究所の研究員3名

（4）ニワトリ始原生殖細胞（PGCs）凍結保存技術に係るセミナーの開催：

ア．開催時期：令和7年2月20日（木）～21日（金）

イ．場 所：農研機構 畜産研究部門施設

ウ．参加者：東京都、奈良県、千葉県、愛知県の試験場の研究者5名
技術習得研修会参加の研究員3名

3. 持続的生産強化対策事業のうちアニマルウェルフェア配慮型飼養管理推進（農林水産省助成事業）

（1）事業の概要：

鶏のふ化場における初生ひなの取扱いについて動物福祉の観点からもAWに配慮した飼養管理手法の普及が求められている。当事業では、前年度に作成した「ふ化場におけるアニマルウェルフェア推進ガイドライン～雛の安楽死に関する推奨手法～」を使用し、部会や地域協議会が実施する研修会や勉強会において、AWに関する国の指針、AW実施の背景や意義、推奨する安楽死手法等の理解醸成を行い、AWに配慮した飼養管理の実施率向上を目的とした事業。

（2）ガイドラインの普及活動

ア．令和6年7月1日（月） 国産鶏普及推進協議会の総会時

イ．令和6年7月18日（木）西日本ブロイラー孵卵協議会総会時

ウ．令和6年7月30日（火）原種鶏部会総会時

エ. 令和6年9月 4日(水) 日本チャンキー協会技術ゼミナール時

オ. 令和7年1月23日(木) 孵卵施設視察時(5社)

(3) 第1回実施率向上のための検討会 令和6年10月24日(木)

ア. 議事内容

- ① アニマルウェルフェアに関する情勢等
- ② ふ化場のひな殺処分手法についての追加アンケート調査
- ③ ガスを用いたひな安楽死装置の導入に係る課題と対応方法
- ④ その他

イ. 委員(出席者)

八木 淳公 公益社団法人 畜産技術協会 常務理事
友末 琢磨 共和機会(株) 代表取締役
都丸 高志 (株)トマル 代表取締役会長
清水 章弘 (株)ゲン・コーポレーション 代表取締役社長
森 泰三 (株)森孵卵場 代表取締役
山上 祐一郎 (株)福田種鶏場 代表取締役社長
白石 真也 (株)日本チャンキー 代表取締役社長
須藤 加澄 農林水産省 畜産局 畜産振興課 AW推進班 係長
新井 友美 (公社) 畜産技術協会 技術普及部 AW課 課長
工藤 裕治 (一社) 日本種鶏孵卵協会 常務理事

(4) 第2回実施率向上のための検討会 令和7年2月13日(木)

ア. 議事内容

- ① アニマルウェルフェアに関する最近の情勢等
- ② ふ化場のひな殺処分手法の追加アンケート調査(令和6年11月実施)の結果
- ③ ガスを用いたひな安楽死装置を実際に使用している孵化場の視察報告
- ④ ガスを用いたひな安楽死装置の導入に係る課題と対応方法
- ⑤ 次年度事業の考え方

イ. 委員(出席者)

上記第1回出席者に加え

赤木 八寿夫 アミューズ(株) 代表取締役社長
中野 光 農林水産省畜産局 畜産振興課 AW班 課長補佐

(5) 現地視察(実態調査)における意見交換会 AWに配慮した安楽死装置導入ふ化場の視察、令和7年1月23日(岐阜) 1月24日(岡山)

ア. 視察内容 実際に安楽死装置が導入され、稼働している孵化場の視察および国内製造安楽死装置の試験稼働の協議

イ. 参加者 実施率向上のための検討会参加メンバーと協会AW委員

4. ふ化場におけるAW認証制度検討事業（JRA助成事業、(公社)畜産技術協会との共同事業)

(1) 事業の概要;

ふ化場におけるAW認証制度や認証に必要な評価項目の検討・作成等の情報を収集するために国内外調査を行い、AW評価項目を作成する。また認証制度の必要性や運用等に関する検討を行い、ふ化場をモデルケースとして、他畜種への応用等の可能性についての検討を行う事業。そのうち当協会担当分野は国内外の実態調査及び翻訳等を行う事業。

(2) 第1回事業推進委員会 令和6年7月10日(水)

ア. 議事内容:

- ① 事業計画及び事業達成目標について
- ② ふ化場におけるアニマルウェルフェアについて
- ③ 情報提供事業の実施について
- ④ 情報収集事業の実施について

イ. 出席者:

加藤 博美	(国法) 農研機構 動物行動管理グループ	博士
新村 毅	東京農工大学 農学部	教授
丹菊 将貴	(独) 家畜改良センター 岡崎牧場	場長
都丸 高志	(株)トマル	代表取締役会長
清水 章弘	(株)ゲン・コーポレーション	代表取締役社長
山上 祐一郎	(株)福田種鶏場	代表取締役社長
工藤 裕治	(一社) 日本種鶏孵卵協会	(オブザーバー)
中野 光	農林水産省畜産局 畜産振興課	課長補佐
伊藤 愛真	同	係員
松本 博紀	(公社) 畜産技術協会	専務理事
八木 淳公	同	常務理事
新井 友美	同	技術普及部 AW課長
山口 駿介	同	同 職員
木本 光	同	同 職員

(3) オランダ、ドイツの孵化場におけるAWの状況や卵内雌雄鑑別装置等の実態調査

① 調査日程: 9月29日～10月6日

② 調査参加者:

新村 毅	東京農工大学 生物生産学科	教授
八木 淳公	(公) 畜産技術協会	常務理事
橘 亮介	(株)ゲン・コーポレーション	生産部門長
山上 祐一郎	(株)福田種鶏場	代表取締役社長
(清水 章弘	(株)ゲン・コーポレーション	代表取締役社長)

調査結果については、冊子「ふ化場におけるアニマルウェルフェアについて（オランダ、ドイツ）」を公表

(4) 第2回事業推進委員会 令和7年3月18日（火）

ア. 議事内容

- ① 事業進捗状況
- ② 情報収集調査について（海外調査事業の内容）
- ③ ふ化場におけるアニマルウェルフェアについて

イ. 出席者 上記第1回参加者に加え

山本 洋一 （公社）中央畜産会 参与

5. 鶏卵生産者経営安定事業のうち「精度向上に配慮した鶏ひなふ化羽数調査受託業務」（（一社）日本養鶏協会事業 農林水産省助成事業）

(1) 事業の概要：

より精度の高い鶏卵の需給見通しに寄与することを目的に、標準化したマニュアルに基づき「精度向上に配慮した鶏ひなふ化羽数調査業務」を行う事業（日本養鶏協会からの受託）。

毎月会員より報告いただいている採卵用ふ化（出荷）羽数調査に加え、卵殻色別ひな出荷羽数および年2回の向こう7ヵ月の卵殻色別出荷羽数計画の調査を行い、鶏ひなの供給予測を日本養鶏協会に報告し、日本養鶏協会は自ら調査した飼養状況を基に鶏卵の生産量を予測し、鶏卵需給見通し検討会を経て公表する仕組みとなっている。

(2) 第1回検討委員会 令和6年8月7日（水）

ア. 議事事項

- ① 鶏卵をめぐる情勢
- ② 直近の「レイヤー種鶏導入および素ひな計画生産の概要」
- ③ 精度向上に配慮した鶏ひなふ化羽数調査業務内容
- ④ 昨年度提出済み「調査報告書（概要）」
- ⑤ 直近（6月）の調査結果
- ⑥ 今後のスケジュール

イ. 検討会メンバー

信岡 誠治	元 東京農業大学 教授
松枝 良輔	(株)シージーシージャパン 米穀・鶏卵チーム 主事
坂本 修三	坂本産業(株) 代表取締役社長
寺本 直人	JA 全農たまご(株) 東日本営業本部 部長
渡邊 周治	(株)ゲン・コーポレーション 相談役
後藤 裕司	(株)ゲン・コーポレーション 技術情報部門長
以下オブザーバー	
赤松 大暢	農林水産省畜産局 食肉鶏卵課 課長補佐

梅村 幸子	同	同	業務推進専門官
橋本 芙奈	北九州市立大学	経済学部	講師
石井 馨	日本養鶏協会	専務理事	
齋藤 万佐夫	同	業務第2部長	
入江 洋雄	同	業務第2部 主事	
都丸 高志	(一社) 日本種鶏孵卵協会	会長	
工藤 裕治	同	事務局長	

(3) 調査報告書(第1回)の提出 令和6年8月9日

(4) 第2回検討委員会 令和7年2月4日(火)

ア. 議事事項

- ① 鶏卵をめぐる情勢
- ② 8月提出済み「調査報告書(概要)」について
- ③ 直近(12月)の調査結果及び報告書の内容について
- ④ 卵殻色別鶏ひなふ化羽数(実績)
- ⑤ 出荷先(都道府県)別鶏ひな出荷羽数(実績)
- ⑥ 過去7か月の卵殻色別鶏ひな出荷羽数(実績)
- ⑦ 向こう7か月の卵殻色別鶏ひな出荷予定羽数(計画)
- ⑧ ブロイラー用鶏ひな、種鶏用鶏ひなふ化羽数・出荷羽数(実績)
- ⑨ 今後のスケジュール

イ. 参加者 上記同様

(5) 調査報告書(第2回)及び業務報告書の提出

Ⅱ. 自主事業

1. 種鶏導入調査事業(自主財源)

(1) レイヤー素ひな計画生産検討会・レイヤー孵卵部会

年度中に2回(令和6年7月11日(木)、令和7年2月13日(金))開催し、レイヤー種鶏導入実績及び種鶏導入計画を基に「令和6年次及び令和7年次の素ひな生産見込み等」について検討を行い、レイヤー素ひなの生産見込み羽数を公表した。

(2) ブロイラー素ひな計画生産検討会・ブロイラー孵卵部会

年度中に2回(令和5年7月11日(木)、令和7年2月13日(金))開催し、ブロイラー種鶏導入実績及び種鶏導入計画を基に「令和6年次及び令和7年次の素ひな生産見込み等」について検討を行い、ブロイラー素ひなの生産見込み羽数を公表した。

2. 地域協議会等組織強化事業

(1) 地域協議会

ア. 東日本レイヤー孵卵協議会

- ・総会 開催日 令和6年5月30日
場 所 書面（決議）
決議内容 ・令和5年度事業報告及び決算
・令和6年度事業計画及び予算案
・役員改選
出席者 会員総数8社 議決権行使会員数6社
令和6年度は会員数7社（1社退会）

イ. 中部レイヤー孵卵協議会

- ・総会 開催日 令和6年4月17日 16:30～
場 所 長良川温泉十八楼
決議事項・令和5年度事業報告、貸借対照表、収支決算承認の件
・令和6年度事業計画、収支計画書（案）承認の件
・役員の改選に関する件
・その他
出席者 4社 欠席 1社

ウ. 九州・四国レイヤー孵卵協議会

- ・臨時総会 開催日時 令和6年5月10日
場 所 書面開催
議題等 ・役員の改選について
出席者 7社
- ・総会 開催日 令和6年6月19日 15:30～
場 所 リファレンスはかた近代ビル
議題等 ・令和5年度事業報告及び収支決算に関する件
・監査報告
・令和6年度事業計画及び収支予算に関する件
・その他
出席者 7社

エ. 東日本ブロイラー孵卵協議会

- ・臨時総会 開催日 令和6年4月15日
場 所 書面開催
議題等 役員改選について等
出席者 26社中 22社参加
- ・総会 開催日 令和6年7月25日 15:00～
場 所 馬事畜産会館2階会議室
議題等 ・アニマルウェルフェアについて情提供及び周知
・総会開催時期の変更について

- ・現地協議会開催について
- ・その他

出席者 21社中8社9名（委任状11社）合計19社
 オ. 西日本ブロイラー孵卵協議会

- ・臨時総会 令和6年4月15日 書面決議（役員改選について）
- ・総会 開催日 令和6年7月18日（木）15:30～17:00
 場 所 ホテル グラン・ココエ倉敷
 議題等
 - ・2023年度事業
 - ・2023年度収支決算
 - ・2024年度事業計画（案）
 - ・2024年度収支予算（案）
 - ・情報共有

ア. 孵化場におけるアニマルウェルフェア 畜産技協会
 イ. ふ化場におけるAW推進ガイドライン 種鶏孵卵協会
 ウ. 鳥インフルエンザ、雛需給、行政に向けた要望事項等
 出席者 19社36名、協会事務局1名 計37名

(2) 原種鶏部会

- ア. 総 会 令和6年7月30日（火）
 場 所 さっぽろ鮎処 海森
 議 題
 - ・令和5年度事業報告及び決算報告
 - ・令和6年度事業計画及び予算案
 - ・令和6～7年度役員について
 - ・ふ化場におけるAW推進ガイドライン
 出席者 原種鶏部会7社8名、協会より2名 計10名
- イ. 農林水産省と情報交換会 令和6年12月5日（木）
 場 所 農林水産省 会議室
 議 題 農水省に対する質問／要望事項に対するか回答及び質疑
 応答
 出席者 農林水産省 動物衛生課検疫業務班、動物検疫所、畜産
 振興課、原種鶏部会員、日孵協事務局
- ウ. 農林水産省動物衛生課長及び動物検疫所長に対する
 「種卵輸入に関する確認・要望事項」の提出 （令和7年1月）

(3) 国産鶏普及協議会

- ア. 総 会 令和6年7月1日（月）
 場 所 馬事畜産会館 会議室
 議 題
 - ・和5年度事業報告及び収支決算報告

- ・令和6年度事業計画並びに収支予算案
- ・令和5年度会費徴収について
- ・国産鶏飼養優良経営農家表彰について
- ・その他

意見交換会 講師（独）家畜改良センター 岡崎牧場 丹菊場長
 報告 ふ化場におけるAW推進ガイドライン 種鶏孵卵協会
 出席者 日比野会長、森副会長、吉田監事、他会員6名
 来賓3名、報道関係5名 合計17名

イ. 現地研修会 令和6年9月9日（月）～10日（火）

内 容 高知の在来鶏や土佐はちきん地鶏の視察等
 場 所 高知県畜産試験場（佐川町）、(株)むらびと本舗（大川村）
 出席者 会員 3名、来賓 2名、報道関係 2名、その他 2名

3. 鶏卵・鶏肉の消費促進事業

(1) 全国鶏肉消費促進協議会（事務局 一般社団法人日本食鳥協会）

総 会

開催日時 令和6年7月16日（火）16:00～

場 所 日本食鳥協会会議室

議 題 ・令和5年度事業報告及び収支決算書承認の件
 ・令和6年度事業計画の件
 ・令和6年度収支予算及び会費の賦課並びに徴収方法の件
 構成団体（協）日本飼料工業会、JA全農、（一社）日本養鶏協会、
 （一社）日本食鳥協会、（一社）日本種鶏孵卵協会

主な事業・国産鶏肉の消費宣伝

- ・国産チキン祭りへの協賛
- ・国産鶏肉を使った料理講習会・イベントに対する助成

協会負担金 150千円

(2) （一社）日本養鶏協会に対する助成（販促等） 300千円

4. 令和6年度 第1回アニマルウェルフェア（AW）委員会

開催日時 令和6年5月29日（金）10:00～

場 所 馬事畜産会館 2階会議室

出席者 都丸会長、山上社長（AW委員会会長）、赤木社長、
 橋本社長、清水社長、森社長、白石社長、工藤事務局長
 八木常務（畜産技術協会）、新井課長（畜産技術協会）

協議事項 ・ふ化場におけるアニマルウェルフェア推進ガイドラン
 について
 ・アニマルライツセンターとの面談内容等について

- ・令和6年度農林水産省補助「AW配慮型飼養管理推進」について
- ・令和6年度JRA助成事業「ふか場におけるAW認証制度検討事業」における海外調査事業について

※ AW委員会は、今年度については「持続的生産強化対策事業のうちアニマルウェルフェア配慮型飼養管理推進（農林水産省助成事業）に合流する。

5. 令和6年定時総会・理事会等の開催概要

①第49回定時総会

開催日時 令和6年5月29日（水）13：30～
 場 所 馬事畜産会館
 出席会員 総会員数79名中、実出席29名、委任状22名、書面
 議決19名、計70名
 議 題 第1号（報告事項）令和5年度事業報告
 第2号（決議事項）令和5年度貸借対照表及び正味財産
 増減計算書承認の件及び監査報告
 第3号（報告事項）令和6年度事業計画及び正味財産増
 減予算書承認の件
 第4号（決議事項）令和6年度会費の額及び徴収方法に
 関する件
 第5号（決議事項）理事、監事の報酬額及び支給基準に
 関する件
 第6号（決議事項）理事・監事の選任に関する件
 第7号（報告事項）会員の異動状況について
 第8号（報告事項）令和6年度の協会行事日程について
 講 演 演題 種鶏孵化場の可能性と課題
 講師 橋本 亘 氏（日本レイヤー㈱ 代表取締役）

② 令和5年度協会監査

開催日時 令和6年4月19日（金）10：00～
 場 所 協会事務所
 監 事 谷藤 広志（小岩井農牧㈱）、山下 眞（㈱一宮家禽孵
 卵場）
 監査事項 令和5年度事業報告、収支決算及び貸借対照表、賞味財
 産増減計算書、財産目録、監査講評

③ 令和6年度理事会内容等

	日 時	場 所	役員数	出席者数	議 案
第1回	4月19日	馬事畜産会館 会議室	17	16	(決議事項) ・令和5年度(事業報告・貸借対照表及び正味財産増減計算書承認・監査報告)について ・令和6年度(事業計画・正味財産増減予算書・会費の額及び徴収方法・理事、監事の報酬の額及び支給基準・役員の選任)について
					(協議事項) ・会員の異動状況について ・令和6年度の協会行事日程について
第2回	5月29日	馬事畜産会館 会議室	17	15	(決議事項) ・協会会長等役付け役員の選任の件
					(協議事項) なし
第3回	7月12日	馬事畜産会館 会議室	17	16	(協議事項) ・令和6年度事業について①孵化場体質強化推進事業(JRA助成事業)②畜産生産力・生産体制強化対策事業(PGCs事業)③持続的生産強化対策事業のうちアニマルウェルフェア配慮型飼養管理推進(農林水産省助成事業)④ふ化場におけるAW認証制度検討事業(JRA助成事業、(公)畜産技術協会との共同事業)⑤精度向上に配慮した鶏ひなふ化羽数調査業務(一社)日本養鶏協会からの受託)⑥種鶏孵卵経営対策事業(自主財源事業) ・令和6～7年度 部会委員について ・デジタル原則を踏まえた所管法令の適用に係る解釈の明確化等について ・賛助会員の加入について ・協会50周年記念行事等について
第4回	10月25日	NATULUCK 茅場町会議室	17	17	(協議事項) ・令和6年度事業の遂行状況について ・令和6年度経営セミナーについて ・50周年記念講演の演者選定について ・協会50周年記念行事関係について ・今年度及び次年度(令和7年度)の年間行事予定について
第5回	2月13日	馬事畜産会館 会議室	17	16	(協議事項) ・令和6年度事業報告(中間報告) ・令和6年度決算決算見込みについて(正味財産増減計算書) ・令和7年度【事業計画・予算案(暫定)・予定事業・予算案(暫定)】について ・協会50周年記念行事関係について ・令和7年度協会年間行事予定について ・会員の異動状況について

④ 令和 6 年度経営セミナー

開催日時 令和 7 年 2 月 1 4 日（金） 1 3 : 3 0 ~

場 所 馬事畜産会館 2 階会議室

内 容

ア. 演題 令和 6 年度の高病原性鳥インフルエンザの現状分析

講師 白田 一敏 氏 （株式会社ピーピーキューシー
代表取締役 獣医学博士）

イ. 演題 ふ化場におけるアニマルウェルフェア

講師 八木 淳公 氏 （公益社団法人畜産技術協会
常務理事 事務局長）

